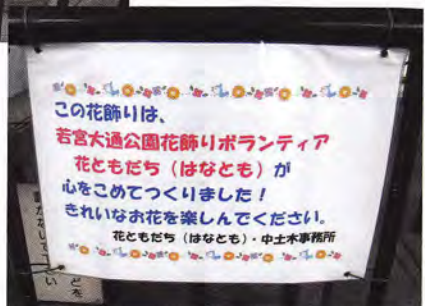


写真④ 「はなとも」活動。治安にも効果のある花飾り



写真⑤ 植え込み配置図を付け、人の関与をよりアピール



写真⑥ 活動の目的を伝える

ベージュの多い建物が並ぶエリアでも、ベージュには赤系・ピンク系・オレンジ系があるので、その違いにより調和する花色が微妙に異なる。例えば、ピンク系ベージュの背景には、オレンジの花よりもピンク系・赤紫色の同系の色相が調和しやすい。背景を構成しているメインの色は何色なのか、色の分布状況など、花飾りを施す対象エリアの「外見の色」とらえる。

彩の特性や周辺の構成要素との関係、前提条件として望ましいあり方などを検討する

◆対象エリアの特長や目的、狙い、望ましい今後のテーマを表現するには、どんなコンセプトが良いのかを考える

例えば、特長や目的、狙いに合う言葉や意見などを洗いだしてみて、似た言葉や意見のグループピングを行い、コンセプトキーワードを抽出し、そこからカラーコンセプトを決める方法もある。

◆④色彩設計、植栽プラン、提案、施工

◆③のカラーコンセプトに基づいて

ここ数年、愛知県豊田市、名古屋市の景観における色彩や植栽について関わってきました。そこで、景観において植物の心理的力は非常に大きいものだとして改めて強く感じました。

名古屋市中区矢場町の高速道路高架下のハンギングバスケット活動「はなとも」は、美観目的だけではなく、治安にも効果のある花飾りの好例です。この場所は、ゴミの不法投棄などがあり、治安のために人の気配を感じられるハンギングバスケットをボランティア活動で飾り、効

日本での最近の事例

答えは、一つではありません。大切なのは、「なぜ、この花色を選んだのか」という想いを、明確にすることです。

てテーマカラーを決め、季節に合わせた実際の植栽を考える(※ハンギングバスケットマスター認定講習テキストの配色方法、アンダートーン配色、色彩心理、イメージカラー、シーズンカラーなどの項目を参考にしてください)

◆イメージに合うデザインについても色彩と同様に考慮する

全体のデザイン、個々の植物の持つフォルムや質感、資材を用いる場合は、資材もカラーコンセプトに合うものを考える。(※同じくデザインの要素、イメージカラーの項目を参考にしてください)

建物を一させるには、長い年月がかかります。50年、100年先を見据えて、考えていかななくてはなりません。しかし、花は季節ごとに咲き変化していくものなので、今あるまちの色に似合う花飾りを施すことにより、景観を改善させることも可能なのです。

また、駅前など派手な看板類の連立する場所でも、そこに大きな樹木が一本あるだけで、心理的には木のない場所と比べると随分印象が良くなります(写真⑦)。郊外の国道などで、看板類が連なる道路においても、街路樹が規則的に並ぶことにより、派手な看板類も心理的に緩和され、景観に統一感が生まれます。手入れされた植物が並ぶまちは、優しいまち、住みたくなるまちになるのです。人の心に作用するのです。



写真⑦ 豊田市駅前の市の木「ケヤキ」